

習志野市地域ケア推進会議 ～個別ケース検討の積み重ねによる視点（一例）～

行政における施策の展開

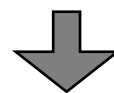
【資料 1－2】(令和3年度 第1回 地域ケア推進会議 資料)

認知症サポーターの養成による見
守り体制の強化

団地内での通いの場の開催

生活支援サービスの展開

地域ケア推進会議の開催



多職種

参加者の
選定

【認知症】

- ・民生委員・住民組織の代表者
- ・認知症に携わる関係者
- ・認知症地域支援推進員

【閉じこもり】

- ・集合住宅の自治会代表者
- ・ボランティア団体等の代表者
- ・生活支援コーディネーター

【生活支援】

- ・介護サービス事業者
- ・民生委員・住民組織の代表者
- ・生活支援コーディネーター

課題を
踏まえた検討
内容例

【認知症】

認知症を広く周知するには など

【閉じこもり】

集合住宅の自治会との情報交換の
持ち方 など

【生活支援】

・担い手を養成するにはどうしたら
よいか など

地域ケア個別会議
地域ケア圏域会議

から見えてきた課題



個別ケースの検討を積み重ねる中で、地域に不足している資源やサービス、連携が不十分な職種や
機関、深刻化が予測される地域の課題等を明らかにしていく。

これらを、地域包括支援センターと市が中心となり、地域の課題を共有する。

多機関

ケースに
共通する
課題

認知症

- ・地域で認知症高齢者が増加。
- ・認知症についての住民理解が
進んでいない。
- ・認知症の見守り体制が不十分で
ある。

閉じこもり

- ・集合住宅での高齢化が進み訪問
サービスが増えている。
- ・地域行事への高齢者の参加が減
ってきている。

生活支援

- ・ゴミ出しができない人が増加して
いる。
- ・病院に行きたいが移動手段が不
足。